

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター にじいろキッズらいふ (保育所等訪問支援事業)		
○保護者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月22日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 23
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先の先生方が抱える課題に寄り添い、園や学校の環境の中で「明日からすぐに実践できる」具体的な支援方法を共に考え、実行に移す伴走型の支援を強みとしています。	特別な備品を用意するのではなく、園にある椅子やパーテーションの配置、視覚支援(手書きカード等)など、先生方が無理なく継続できる工夫を提案しています。	園の主要な行事や活動の変化に合わせ、より支援ニーズの高いタイミングでの訪問ができるよう、訪問先施設との年間計画の早期共有と密な連絡体制をさらに強化します。
2	普段の生活場面で直接観察することで、こどものつまずきどころや、逆に発揮されている強みを的確に捉え、具体的な配慮事項へと繋げています。	訪問担当者一人の判断に偏らないよう、事業所内でのケースについて話し合う機会を多く持ち、多職種の知見を統合して質の高いフィードバックができるよう努めています。	訪問後に得られた気づきや支援の方向性をより早く関係者へ届けるため、口頭報告の充実や報告書の作成プロセスの見直しを行い、情報の新鮮なうちに連携を図ります。
3	訪問後の報告を通じて、園での様子を保護者へ、家庭での願いを園へと丁寧につなぎ、こどもを取り巻く環境に一貫性を持たせる調整に注力しています。	課題の指摘だけでなく、訪問中に見られたこどもの成長や、先生方の適切な関わりによる好事例を積極的に言語化し、関係者全員で喜びを共有する姿勢を大切にしています。	対象となるこどもへの支援が、結果としてクラス全体の過ごしやすさ(ユニバーサルデザイン)に繋がるような、汎用性の高い助言・提案ができるよう、職員の専門研修を継続します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園や学校の先生方が最も支援を必要とされる場面(行事の練習や活動の大きな切り替え時など)に、よりピンポイントで訪問を合わせる調整力がさらに求められています。	定例の訪問日時を優先するあまり、園の突発的な行事予定や、こどもの状態変化に合わせた「最も効果的なタイミング」での訪問調整が、一部後手に回ってしまうことがありました。	訪問先施設の年間行事予定を早期に把握し、支援の優先度が高い時期を事前に相談させていただくことで、より効果的なタイミングでの訪問が可能な体制を整えます。
2	訪問時の観察結果や提案事項を、現場の先生方がお忙しい合間でもバツと確認でき、すぐにクラス運営に活かせるような、より簡潔で視覚的な情報提供の工夫が必要です。	多職種で相談することもあり、現場で「今、知りたい」というニーズに対して、情報のフィードバックまでにタイムラグが生じる場面がありました。	訪問の後は、カンファレンスを大切にしていますが、「今日のお伝えしたポイント」としてスピーディに可視化出来るシステムづくりができると良いと思っています。
3	特定のこどもへの個別支援にとどまらず、その配慮が「クラス全体の過ごしやすさ」に波及するような、ユニバーサルデザインの視点を持った助言をさらに強化する余地があります。	職員個人の経験に基づいた助言が中心となり、園の先生方全員が「これなら自分たちでも継続できる」と感じていただけるような、汎用性の高いノウハウの共有が十分でない場合もありました。	特定のこどものための環境調整が、結果として「周囲のこどもたちにとっても分かりやすい環境」となるよう、UD(ユニバーサルデザイン)の視点を取り入れた研修を職員間で実施し、提案内容の質を高めます。